

# 紫雲寺商工会 令和2年度上期景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 紫雲寺商工会地区内小規模事業者  
イ 調査企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
ウ 回答企業数 15 事業所 (うち小規模事業者数 15 事業所)  
(回答率 100.0%)

### (2) 調査対象期間

- 令和2年1月～令和2年6月  
(調査時点 令和2年9月1日)

### (3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	1	6.7%	1	6.7%
建設業	3	20.0%	3	20.0%
卸・小売業	3	20.0%	3	20.0%
サービス業	8	53.3%	8	53.3%
合計	15	100.0%	15	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、客数や受注量の減少から厳しい状況となっている事業所が多い。特にサービス業においては、緊急事態宣言による営業時間短縮や営業自粛、消費者の外出自粛等により、売上は大きく減少した。一方、在宅時間の増加で「巣ごもり」需要を取り込んだ小売業や食料品製造業は、軒並み売上の増加がみられ、業種によって明暗が分かれている状況となっている。

### 【後継者の状況】

全体の8割が「後継者あり」と回答した。しかしながら「具体的にどう進めていけばいいかわからない」「計画の策定までは至っていない」といった声が多かったため、引き続き事業承継に関する支援（計画書策定支援含む）を展開していく必要があると伺えた。

後継者 あり	12事業所	80.0%
後継者 なし	3事業所	20.0%

※うち1事業所は事業主が40代前半

### 【売上高】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、前年同期比・前期比ともに売上高は、「増加」と回答した事業所よりも「減少」と回答した事業所が大きく上回った。今後の見通しにおいても、新型コロナウイルス感染症の影響により、先行きの見通しが立たないことから、現状の悪化から変わらないということで、「不変」と回答した事業所が多かった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
3	3	9	3	0	12	4	9	2

### 【採算】

前途【売上高】同様の理由から、前年同期比・前期比は「悪化」が最も多く、今後の見通しにおいても、「不変」が最も多かった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	5	8	2	2	11	4	10	1

### 【仕入単価】

飲食・小売業においては「天候不順により野菜等の仕入れ価格が上昇した」、建設業においては「製造コストの上昇から建築資材が高騰した」との声があり、一部の業種において、仕入単価の上昇から利益を逼迫している状況が伺えた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
6	8	1	7	7	1	4	11	0

### 【販売（客）単価】

「上昇」と回答した事業所の理由としては、「前途【仕入単価】の上昇により販売価格へ転嫁した」といったものであったが、一部の事業所では価格へ転嫁できていないことから「不変」と回答した事業所もあった。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
3	8	4	3	7	5	2	11	2

## 【資金繰り】

前年同期比・前期比ともに、すべての事業所が「不変・悪化」と回答した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により景況は厳しくなっているものの、国の持続化給付金や3年間実質無利子・無担保融資となるコロナ特別貸付等による長期的な借入（既存借入の借換を含んだ）により、急場をしのいだ事業所が大半を占めた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
0	11	4	0	12	3	2	12	1

## 【雇用動向】

家族のみでの経営、従業員数の現状維持により「不変」と回答した事業所が大半を占める結果となったが、一部の事業所では、受注の増加に伴い、新たな雇用の確保に取り組んだといった声も寄せられた。また、新たな問題として、人口減少や労働人口の流出によって、地域内での人材確保が困難な状況になっているといった声も寄せられた。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
1	12	2	1	11	3	1	11	3

## 【景況判断】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、「売上が減少⇒採算が悪化」していることから、前年同期比・前期比ともに「悪化」と回答した事業所が多かったが、在宅時間の増加で「巣ごもり」需要を取り込んだ一部の事業所は「好転」と回答した。今後の見通しは、国・県・市の新型コロナウイルスに対する各種施策（GO・TOキャンペーン事業等）への期待から、「好転」と回答した事業所が増加した。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	5	8	2	5	8	5	8	2

## 【経営上の問題点】

経営上の問題点は、「店舗・設備の老朽化」と回答した事業所が最も多く、次いで「需要の停滞」であった。これら問題を打開すべく、小規模事業者持続化補助金等を利用して販路開拓に積極的に取り組んでいきたいといった声も寄せられた。

